



日野市立日野第四小学校

校長 三浦 寛朗

令和6年5月号

学校 Web ページ

<https://www.hino-ky.ed.jp/e-hino4/>



学校標語 「夢中になれる 夢中にさせる 日野四小」

自分で学ぶ力を育む学校に

校長 三浦 寛朗

初夏の風が清々しい今日この頃、日中は汗ばむ季節となりました。新年度がスタートして約一か月が過ぎ、子供たちも新しい担任、クラスメイト、学級の雰囲気慣れてきた頃かなと思います。

さて、先日、2年生の子が自分が植えたミニトマトを見せてくれました。その時、こんなことを話してくれました。「苗を植えたときには小さくて、ミニトマトだから小さいのかな、本当に実ができるのかなって思った。でも、担任の先生が教えてくれた『お水をきちんとあげること』『ミニトマトを大切にすること』を守ってたら、いつのまにかぐんぐん大きくなってた。今は、1つだけだけど花も咲いてるよ。」

ミニトマトの様子を話しているときの笑顔がキラキラと輝いていて、とてもすてきでした。この話を近くで聞いていた子たちも、「私のも花が咲いてる!」「僕のは3つも花が咲いてるんだよ!」と教えてくれました。みんな、自分の植えたミニトマトの成長がうれしかったようです。

そんなとき、一人の子が「私のは、まだ花が咲いてないの。お世話がよくないのかな。」と悲しそうに言いました。他の子のミニトマトには花が咲き始めていたのを見て、自分のミニトマトは大丈夫なのだろうか、不安になってしまったのだと思います。その子のミニトマトの様子を見ると、枯れているわけではないので、きちんとお世話をしていることが分かりました。たまたま花が咲いていないだけだと思ったので、「これから花が咲くから大丈夫だよ。」と声をかけようとする、近くにいた子が寂しそうな顔をした子に、こんな風に声をかけてくれました。

「○○ちゃん大丈夫だよ。○○ちゃんは毎朝、水をあげてるし、僕のだってまだ花が咲いてないよ。花が咲いてない子、他にもいるよ。」

言われた子は、安心したのだと思います。「そうだね。ありがとう。」と言いながら、少し笑顔を見せて、優しい言葉をかけてくれた子と一緒に、昇降口に歩いて行きました。

一人の子がミニトマトの話始めて、悲しい気持ちの子が少し元気になって昇降口に向かうまで、時間にすれば5分もなかったと思います。しかし、この5分弱の時間がとても濃密な時間に、私には感じられました。次のような学びを感じたからです。

- ① ミニトマトを育てるという体験を通して、ミニトマトの成長の様子を学んでいる。
- ② 友達と自分のミニトマトの成長を比べることで、植物の成長には違いがあることを学んでいる。
→ 教科の学び
- ③ 悲しい気持ちになった友達に寄り添い、気持ちを受け止めたうえで励ましている。
- ④ 友達からの優しい心遣いに接して、その子に感謝するとともに、これからも頑張ろうという思いをもっている。
→ 心の学び

短い時間にこれだけのことをしている、そして、それを意識せずにしていることがすごいなと感じます。改めて、子供たちの力の大きさに感動した出来事でした。

子供たちは、本来、自分たちで様々なことを学ぶ力をもっています。その力をいかに適切に使うことができるようになるか、自分で使えるようになるかが、私たち学校の大きな役割だと感じています。5月から始まるマイプランスクールも、そのための学習活動です。「子供たちが自分で決める・選ぶ・進める授業」であるマイプランスクールを今年度も充実させてまいります。11月2日、2月1日には子供たちが自分で学んだことを友達や保護者の方々、地域の方々に発表するアウトプットデイも実施します。子供たちが自分の学びをどのように発表をするのか、楽しみにしていただければと思います。

最後になりましたが、4月26日、27日の学校公開には、たくさんの方々にご来校いただきました。ありがとうございました。5月25日には運動会も行われます。こちらもどうぞよろしくお願いいたします。